

欧風客車のインテリア及び色彩計画 II

European Style Wagon and Color Project

柴野 晶子 ELBA DESIGN Shoko Shibano

はじめに

鉄道車両のデザインは、近年、あまり変化せず、旅客を輸送すればいいというイメージのままであった。しかし、バス、乗用車が発達し、鉄道側がバス、乗用車に対抗して、旅客を確保するために、車両のインテリア、色彩を重視するようになった。

このようなことから旅行者のニーズに合った客車を開発することになり、まず昭和56～58年、旧国鉄東京鉄道管理局の「サロンエクスプレス」、同大阪鉄道管理局の「サロンカーなにわ」の開発が計画、実施された。この計画を参考にして、同名古屋鉄道管理局において、欧風客車「ユーロライナー」が誕生することになった。私も、このプロジェクトチームに参加することが出来たので、主に色彩計画ならびにデザイン面に関して、計画、実施までを分析してみたいと思う。

目的と方法

旧国鉄名古屋鉄道管理局では、最近の旅客のニーズに応じて、良質な輸送サービスを行うことにより、少しでも増収をはかることを目的として、車両の新・改造が考えられた。東京、大阪において開発された車両を参考に、どこにもない特色をもった車両でなければならなかった。

名古屋という地理的な面から、若者の夏山およびスキー客を対象とする車両開発のため、多くのディスカッションの上、昭和59年4月から本格的設計に入り、60年2月、改造に着手、全車両が10月に完成した。

車両の基本構想は、つぎの通りである。

- ①種車は、12系客車改造型および新型客車7両1編成とする。
- ②定員は、約180名。

- ③室内は、洋風とし、若者対象のカジュアルで、モダンなイメージを保ち、カフェラウンジを設ける。

- ④ビデオ、オーディオサービスを行うことが可能であること。

- ⑤個室とする。(4人用、6人用を設ける)

- ⑥窓の幅広化と、天窗の採用。(天窗は、近畿日本鉄道の特急をイメージしたが、旧国鉄初のサンルーフが付いた)

- ⑦スキーおよびリックなどの荷物を収納出来るスペースの確保。(航空機に用いられている荷物入れ、コンソールボックスを使用)
- ⑧車体色は、明るく、新鮮な内部とマッチしたイメージカラーとする。

以上のようなことから車両のレイアウトおよびデザインと色彩計画の範囲を決定することにした。カラーデザインの面では、

- ①幅広い客層、特に若年層を対象とするため、車両の外観、内部とも明るい活動的なカラーイメージを主体とする。

- ②客室の壁面および天井はアイボリー系。一部ブラウン系。

- ③床は、グレー系と、一部ブラウン系とする。

- ④座席は、中間色のグリーン系をグラデーションとして使用、アクセントカラーとする。

- ⑤利用客のカラフルな服装などの色が入ることを考慮して、座席以外には色の使用を出来るだけ避ける。(照明器具、荷物入れ、設備機器など)

- ⑥カーテンは、窓側の座席色の延長のイメージでイエロー系とする。

- ⑦カフェラウンジは、より明るく、カジュアルなカラーイメージの中に暖かみのある色、オレンジ

ジを主体とする。

⑧展望車は、壁がアイボリー系（模様入りオレンジ）。天井は、アイボリー系、床がブラウン系。一部、濃いオレンジ。椅子は、オレンジ、カーテンは、一部オレンジ系を入れアクセントカラーとする。

特に客車の天井、壁面のアイボリー系使用は、個室としての小さな空間を天窗の明るさと共に開けたイメージの空間とするためであった。また色彩を自然光と共に感じさせるため、座席のグラデーションのつけ方は、窓側を明るく、廊下側を濃い色彩とした。

以上のような内部の色彩計画の結果から、外観の車体色は、内部色とのイメージをマッチさせた色として、ライトペールグレー地に、コバルトブルーの帯を4本入れ、落ち着いたざん新なイメージを表現した。

図各内部の使用色一覧表

	マンセル値による				
	床	壁	天井	アクセントカラー	その他
1,7号車	7.5R 3/12	2.5Y 9/1	2.5Y 9/1	10R 4/13	5Y 3.5/4
展望車					7.5Y 9/1
(客席)	5YR 4/5	7.5YR 8/2	2.5Y 9/1	H-7.0	H-2.0
2,3,5,6号車	7.5Y 5/2	2.5Y 9/1	2.5Y 9/1	5Y 7.5/12	2.5YR 3.5/3.5
号車	7.5R 3/12	7.5YR 8/2		5GY 5.5/6.5	7.3Y 9.2/0.7
(客席)		7.5YR 6.5/3		2.5G 3/5	H-7.0
				2.5Y 9/4	
廊下	2.5Y 7/3.5	2.5Y 9/1	2.5Y 9/1	6.2Y 7.5/9.4	5Y 3.5/4
	10YR 9/2			2.5Y 9/5	
	2.5Y 7/3.5				
	2.5Y 6/2				
	10YR 5.5/2.5				
47x5977	7.5R 3/12	2.5Y 9/1		10R 4/13	7.5Y 9/1
	10YR 9/2	10R 3/2	10R 3/2	2.5YR 6/13	6Y 9/0.7
	2.5Y 7/3.5	10YR 7/2	2.5Y 9/1		5Y 8.5/2
	2.5Y 6/2				H-2.0
	10YR 5.5/2.5				

結果

全車両は、あまり多くの色を使用しないで全体をグレー系とブラウン系、アイボリー系とし、アクセントカラーにオレンジ、グリーン系を利用したが、残念なことに、個室の床がひとつおきに赤に変更された。

前回の論文（昭和63年度関西支部大会講演予稿集P.17-18）でも述べたように、車両が公共的なものであるために、用途に合っているだけでは、好きな材料および色彩を使うことが出来ず、多くの制限を受け、色彩も微妙な色が出なかった。

東京、大阪の車両を参考に、設備機器の色彩を考えたが、名古屋の「ユーロライナー」の場合は、車両として、どうしても使用せざるを得ないサッシの色が強く出て来ることは残念であった。

図-2(1) 個室車(オロ12 701・702・704・705)形式図 (1/200)

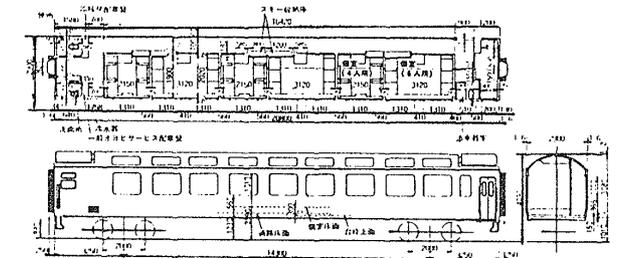


図-2(2) 展望車(スロフ12 701・702)形式図 (1/200)

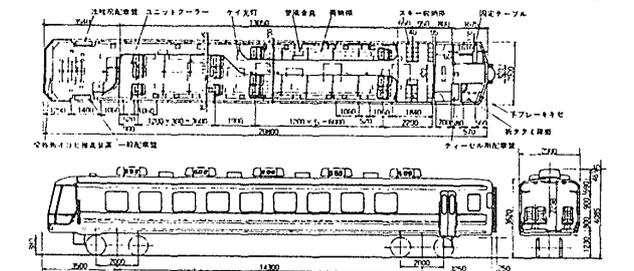
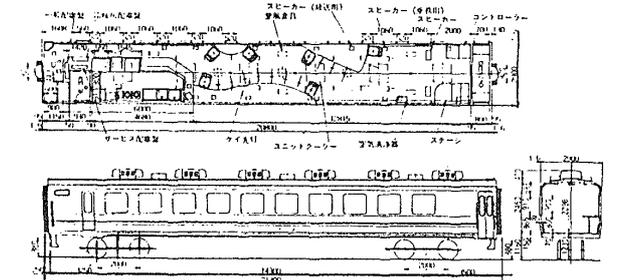


図-2(3) カフェラウンジ車(オロ11 701)形式図 (1/200)



考察

個室車両は、旧客車を利用したのと違い、新造されたために、デザイン面は、美しく仕上がったと思う。色彩面は、一部、残念な箇所もあったが、どうにかまとまったと思う。しかし、運行後、見学すると、利用客のマナーの悪さもあって、床の汚れ防止のため、色彩に無頓着に、カーペットを二重敷きにするなど、思いがけないことが多く生じていることに驚いた。今後もデザイン、色彩面に多くの研究の余地を残してしまった。

参考文献

鉄道ジャーナル No.224
 欧風客車「ユーロライナー」誕生(編集部)
 鉄道ピクトリアル No.455
 国鉄名古屋鉄道管理局・新型欧風客車
 「ユーロライナー」デビュー(山本喜正)
 鉄道ファン No.303
 The SPECIAL COLOR NOW in JNR(梓 岳志)